

子供の頭の陥没骨折

かわいい子供の頭がへこんでいるのに気づいた。普通の親なら、腰を抜かさん抜かさんばかりに驚くことだろう。

7歳のS君。お父さんが、たまたま「さすが我が子」と褒めたのかどうか知らないが、S君の頭をなでた。途端、「うーむ」と、固まってしまった。左頭の真ん中辺りにへこみがあるではないか。右にはない。左だけだ。

S君は、いつか、どこかで頭をぶつけていたのだ。が、その記憶がない。お母さんだって、ケガには気づいていない。CT（コンピュータ断层撮影）で確認するや、左頭頂骨が直径約3センチ大で3×4センチ陥没しているのが分かる。少し古そうだが、陥没骨折に違いない。でも、脳にはキズはみられない。

頭の陥没骨折で、手術しなければならぬのは、陥没が1センチ以上あるものも見苦しい部位にあるもの、静脈血の集まる静脈洞を圧迫するものなどだ。となれば、S君の場合は、このまま様子を見ていければいいんじゃないかな。

だが、親は、「骨折するくらいだから、脳にキズができないワケがない」と、なかなか納得しない。子供の頭の骨は薄くて、ピンポン玉のようにへこみやすい。また、脳は柔らかいから、衝撃が緩められ、和らぐ。「強い外力が加わっても、キズつきにくいのが特徴だ」と説明するが、馬耳東風。

で、「てんかんの後遺症は大丈夫か？」と続く。外傷性てんかんの80%は、2年以内に発症する。陥没が古そうで、脳にキズもないS君には、てんかんの危険性は少ない。「もし発作が起きるものなら、すぐてんきていけるはず」と答える。

でも、止まらない。「将来、脳腫瘍になることは？」と、親には心配の種は尽きないのだ。東南アジアには、頭をなでてはいけない国もあるという。そういう所でも、こんな親と医者やりとりはあるのだろうか。

(右)黒修三クリニック・脳神経

外科医…北國新聞掲載)